オススメまちあるきコース

50代わたしのオススメコース

目安 たっぷり90分コース
新屋の歴史をたっぷり知りたい方へ

新屋駅 → 徒歩約8分 → 余楽庵 → 徒歩約4分 → 日吉神社 → 徒歩約5分 → 森九商店 → 徒歩約3分 → 旧勝平酒造（旧渡辺幸四郎宅） → 徒歩約2分 → 國萬歳酒造 → 徒歩約8分 → 栗田神社 → 徒歩約12分 → 大川端帯状近隣公園 → 徒歩約4分 → アトリエもも さだ（旧国立新屋倉庫） → 徒歩約11分 → 新屋駅

大川散歩道

20代わたしのオススメコース

目安 お気軽60分コース
新屋を気軽に楽しみたい方へ

新屋駅 → 徒歩約7分 → 新屋参画屋 → 徒歩約3分 → 葉隠れ墓苑 → 徒歩約15分 → 渡金 → 徒歩約2分 → 忠専寺 → 徒歩約16分 → スイーツガーデンセレステ翔 → 徒歩約3分 → 新屋駅

文化財イラストマップ 秋田市新屋地区編

秋田市教育委員会

連続立面図を、市民が作成しました！

マップの下部に掲載している図は、市民が作成した秋田市新屋表町通りの連続立面図です。建物を真正面から見て描いた図を「立面図」、立面図を並べて町並みを表現したものを「連続立面図」と言います。

マップの作成のために行ったワークショップでは、市民のみなさんが実際の建物を見ながら立面図を描く時間を設けました。また、秋田公立美術工芸短期大学の学生にも協力して描いていただきました。

この連続立面図を見ながら、歴史あふれる新屋表町通りをぜひ散策してみてください。

町家（まちや）のつくり

町家とは、居住と店舗の両方の機能をあわせもつ職住複合建物のことを指します。明治以前は、日本の町（都市）の住宅はほとんどが町家でした。

新屋の町家の外観は、切妻屋根・妻入・小羽葺・2階建が特徴です。破風部分は、化粧梁・化粧束で何重にも飾られています。

このマップは、市民がまち歩きをして作成しました！

市民のみなさんに地域の文化財・文化施設をもっと身近に感じてもらいたいと、文化財イラストマップを作成しました。

マップ作成のためのワークショップでは、22名の市民のみなさんが実際にまちを歩いて情報を集めました。このマップには、ワークショップ参加者が注目したものやコメントなどを盛り込んであります。

このマップを持ってまちを歩き、地域の文化財・文化施設を楽しんでください。

新屋地区の歴史と地名の由来

秋田市新屋地区は、雄物川河口左岸に位置しています。藩政期は城下町久保田の向こう岸にある「村」でした。かつては、久保田から酒田までをつなぐ旧羽州浜街道がかり、新屋は久保田から最初の宿場町として機能していました。新屋は当時から、良質な湧き水を利用した醸造業、製塩業、各種の商業や製造業が盛んな村でした。

「新屋」という地名の由来は、諸説があります。土砂崩れで集落が移転したことから、「新開地」の意味で呼ばれた、という説もその1つです。また、新屋は藩政期、周辺3か村の親郷で、3か村の汎名を「百三段」と言いました。百三段とは、アイヌ語の「流れ出る」という意の「モモサダ」に由来するという説や、同じくアイヌ語の「川尻の土地」という意の「モムサンドイ」に由来するという説があります。

西部市民サービスセンター（ウェスター）
◇9:00～21:00
◇秋田市新屋扇町13番34号　☎018-888-8080

ほくとライブラリー新屋図書館
◇平日10:00～19:00／土日祝10:00～17:00
◇秋田市新屋大川町12番26号　☎018-828-4215

アトリエもも さだ
◇9:00～16:30
◇秋田市新屋大川町12番3号　☎018-888-8137

秋田市観光案内所（秋田駅構内） ☎018-832-7941

（財）秋田観光コンベンション協会 ☎018-824-8686

編集・発行：秋田市教育委員会 文化振興室
秋田市山王二丁目1番53号　山王21ビル4階
電話番号 018-866-2246　FAX番号 018-866-2252
印　　刷：秋田活版印刷株式会社
イ ラ ス ト：小西　由紀子
発　行　日：平成23年2月（平成28年2月改訂）

まちあるきの注意点

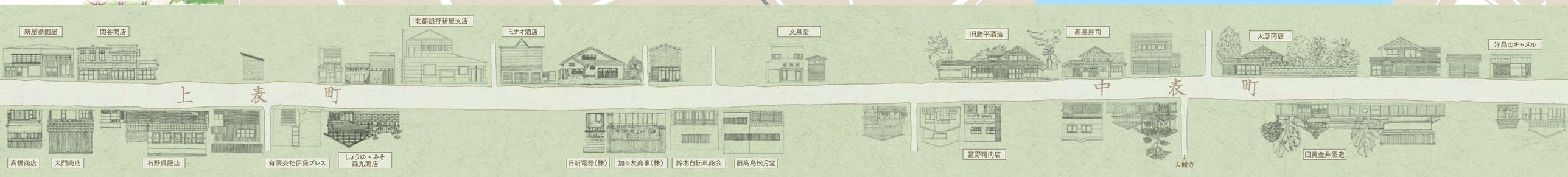
※個人住宅や敷地には立ち入らないでください。

- は、歴史の説明などが記されている標柱や碑を表します。
- は、湧き水を表します。
- は、お食事処を表します。
- は、木かげで一休みできそうな大きな木を表します。

新屋のキャッチコピーを考えてみよう！

あ（例）秋田のまちを再発見したくて
ら ランドマークを目印にまち歩き。
や 優しい味の地元のお菓子をみつけた。

もも モムサンドィ（モモサダ）が名前の由来？
もも もっとたくさん歩いてみよう
さ 桜並木を通りすぎると
だ 大学がみえてきた！



① 新屋温泉

「新屋には温泉は出ない!」と言われていたのを、先代の高橋松之助氏が信念で掘り当てた「奇跡の温泉」。温泉施設は、秋田県で生産された最後の天然ヒバ（樹齢250年）の巨木をふんだんに使用した総ヒバ造りの純木造大型建築物。昭和9年に竣工した旧秋田大橋の橋門を移設した入口が目印です。橋門には「昭和8年 東京石川島造船所 製作」と書かれたプレートがついています。

② 大川散歩道桜並木

新屋駅から旧国立新屋倉庫までの線路がひかれていたところ。現在は、新屋郷土会より寄贈された桜の並木道となっています。新屋郷土会とは、在京および東京近県在住の秋田市新屋町出身とその縁故者からなる団体です。

③ 秋田公立美術工芸短期大学実習棟一号棟ほか6棟（旧国立新屋倉庫）

整然と並んだ倉庫群が美しい、美大（秋田公立美術大学）のシンボル。昭和9年に、旧秋田県販売購買組合連合会（現JAあきた経済連）によって倉庫として建てられました。また、昭和14年から平成2年までは、農林水産省が米の受給調整に用いるための倉庫として管理していました。当時、新屋町・土崎港町・秋田市の間で倉庫の誘致合戦が繰り広げられたというエピソードがあります。戦前期における木造建築物として貴重です。現在は、アトリエもものさだとして活用されています。国登録有形文化財。新屋駅から徒歩約15分。

④ ほくとライブラリー新屋図書館（旧国立新屋倉庫）

旧国立新屋倉庫群のなかの1棟を、図書館の一部として活用。見た目も中身も変わっていますが、れっきとした図書館です。

⑤ 大川端帯状近隣公園（さくら公園）

全長約11㎞の公園。以前は十條製紙の工場の排水路でしたが、せせらぎや緑化の整備により一新しました。桜並木の美しい親水公園に生まれ変わっています。新屋桜橋から上流は埋め立てられ、春の花見から秋の鎮っこまで多くの人が集う緑の広場となっています。

⑥ 愛の鐘

午後5時になると「夕焼けこやけ～♪」が流れます。

⑦ 日吉神社山王祭（ひよしじんじゃさんのうさい）

日吉神社は、「新屋の山王さん」と呼ばれ、新屋の総鎮守として、町の人々の日常生活に密着している神社。祭れは五穀豊穣・集落安泰を祈るもので、4月13日の頭人（とうにん）差定式に始まり、小祓式、大祓式、宵宮祭などを経て5月26日に本祭が行われ、5月27日の傘納め式で終わります。市指定無形民俗文化財。新屋駅から徒歩約9分。

⑧ 余楽庵（よらくあん）

秋田県農業三大人の1人である森川源三郎が晩年を過ごした草庵。明治38年に上北手古野の二見山に建てられたものを、いったん新屋比内沢に移したあと、戦後になって現在地に移築したものです。森川は、二見山で農業・植林に力を尽くす一方で、質素倹約を旨として、非常に勤勉な生活を送っていました。二見山の経営は評判となり、余楽庵には、遠くは九州からも学びに訪れるほどであったといいます。市指定有形文化財。新屋駅から徒歩約10分。

※解説文についている番号は、マップ表面のイラストについている番号に対応しています。

番号の位置（マップ表面）

⑨ 新屋参画屋（さんかくや）

昔は三角屋という下駄屋だった建物。現在は地域の交流の場として生まれ変わっています。カフェも併設されており、おいしい定食が食べられます。オススメはからあげ丼。店内には当時の面影を偲ぶ下駄が飾られています。

⑩ 薬隠れ墓苑（はかくれぼえん）

慶応4年（1868）の戊辰戦争で、援軍として秋田藩とともに戦った佐賀藩士が葬られている墓地です。戦死した佐賀藩武雄の馬渡栄助ら3名の墓石が建っています。昭和63年、戊辰戦争の時に秋田で殉難した佐賀藩士の霊を慰めるために、慰霊碑が建立されました。この場所は、佐賀古来の武士道にちなんで葉隠れ墓苑と名付けられました。葉隠れ墓苑の下にあるベンチに座ると、新屋の町を一望できます。

【戊辰戦争と新屋】
慶応4年（1868）に京都の鳥羽・伏見で始まった戊辰戦争。秋田藩は新政府側に加わり、庄内藩と戦いました。この戦いで、新屋村は兵隊たちの基地となり、村人たちの家は宿泊所や野戦病院として使われました。

⑪ 森九商店（もりく）

江戸時代以来、醸造業が盛んな新屋表町の旧羽州浜街道（北国街道）沿いに位置する醸造元。表にはかっこいいポストがあります。国登録有形文化財。新屋駅から徒歩約9分。

⑫ 馬つなぎの石

旧羽州浜街道は、馬車の往来が多かった道。馬つなぎの石は、当時の風景を思い出させてくれます。

⑬ 天龍寺（てんりゅうじ）の地蔵尊

【新屋のむかしばなし】
茨城県水戸市にある六地蔵寺に、7体の地蔵があります。言い伝えによると、6体のうち1体の地蔵様が中国の唐にある金山寺が火事だというので、消火の手伝いに行っていた間に、村人たちが「六地蔵に5体しかないのはおかしいだろう」と、仏師に頼んで1体を奉納したそうです。
しかし、これで良いなとほっとしたところに、唐に火消しにいったお地蔵様が戻ってきて、結局7体になったそうです。
天龍寺のお地蔵様も手伝いに行ったために7体になり、帰ってくるときひとまわり大きな姿になって戻ってきたので、1体だけが大きいと伝えられています。

⑭ 旧勝平酒造（旧渡辺幸四郎宅）

持ち主の故・渡辺幸四郎さんにちなんで、現在は「わたこうさん」と呼ばれています。内部には、井戸・カマドなどが残っており、当時の生活をかいま見ることができます。また座敷の窓には、木の枝と鳥の凝った飾りがあります。

⑮ 旧黄金井酒造（こがねい）

明治43年 創業の旧酒造店。「酒」と描かれた大きな亀の甲羅が、屋根に飾られています。

⑯ 旧石忠老舗（いしちゅうろうほ）

旧石忠老舗は、天保時代から藩主佐竹氏に落雁（らくがん）を献上していた老舗の菓子店。店舗は昭和40年代建築で、モダンな外観です。後部にある蔵は昭和8年頃の建築。現在は介護事業所「やさしい手秋田ももさだ店」が入っています。

⑰ 佐藤佐七商店（さしち）

【新屋のしょっつる】
新屋のしょっつるは、昔新屋浜で獲れたハタハタやイワシを塩漬けにし、2～3年発酵させてどろどろになったものを搾った調味料です。藩政時代、藩主佐竹氏が新屋の大門助右衛門にしょっつるを醸造させた歴史があります。一般町民は古くから自家用に自宅で造っていました。
しょっつる醸造業は、佐藤佐七商店が明治28年に創業したのが始まりとされています。

⑱ 高橋家住宅（新屋温泉社長宅）

天然秋田杉をふんだんに使った住宅。主屋は約60年前に当時の新屋町の棟梁達が集まって建てたものです。敷地の奥には、80～100年前に建てられた土蔵や離れ座敷、中庭などが並びます。木材業を営む家主が自ら設置した立派な門には、樹齢250年の天然ヒバが使われています。

⑲ 忠専寺の阿弥陀如来立像（ちゅうせんじ）

銅鋳造の立像で、両手は「来迎印」と呼ばれる「人々を救うために阿弥陀如来が迎えにくるときの印相」を結んでいます。素朴な像容で、頭部を特に大きくしたのは礼拝者に慈顔の印象を深くするためだと言われています。よく見ると、確かに顔が大きい！市指定有形文化財。（普段は公開しておりません）新屋駅から徒歩約16分。

⑳ 忠専寺

正保3年（1646）に創建したとされる真宗大谷派の寺院。境内には森川源三郎の墓や、戊辰戦争で戦死した肥前武雄の佐賀藩士の墓3基があります。また本堂には、藩士たちが銃の手入れをした時にできた銃口や鉄砲の台尻の跡が残っています。

㉑ 國萬歳酒造（くにばんざい）

明治41年10月に創業。通りから見ただけでは分かりませんが、奥の深い建物で、屋敷地は1,600坪あります。現在新屋に残る唯一の酒造です。国登録有形文化財。新屋駅から徒歩約12分。

【新屋の清酒】
新屋での清酒醸造の起源は明らかではありませんが、宝暦4年（1754）の文献によれば、新屋の酒屋営業者は6軒ありました（『新屋郷土誌』）。
新屋の砂丘にしみこんだ水は軟水で、舌触りが柔らかく、濁り・嫌な臭い・鉄分がないため、酒造りに大変適していました。また、昔は新屋に船着場があったことから、雄物川の上流で作られた良いお米が手に入りやすかったのです。
こうしてできた新屋のお酒は、飲み心地が柔らかでまろやかなことから、「秋田の女酒」と呼ばれています。

㉒ 長寿の泉

長寿の泉は、國萬歳酒造が酒造りに利用しています。地元の人が水を汲みに来る姿も見かけられます。

【新屋の湧水群】
新屋の土地は砂地のため地下水が豊富で、上質な水を使った醸造業が栄えました。その名残とも言える湧水が、新屋には現在4箇所残っています。
湧水は水質上の問題で今は飲めませんが、地元の人は物についた泥を落とすなど、日常的に利用しています。

㉓ 美蔵（びーくら）な土蔵

油屋、船問屋、酒造業、絹織物製造、金融業などを行っていた新屋の名家。新屋表町通りから見える立派な土蔵は、明治末～大正年間に建てられました。美蔵（びーくら）というネーミングは、びっくりするほど美しい土蔵という意味で、ワークショップ参加者がつけてくれました。

㉔ ひろ建築工房（旧高彦製麺所）

昭和15年建築と推定される町家。寄棟造2階建て、その奥に両下造の平屋建、そのまた奥には2階建土蔵が続き、新屋ではあまり見ない特徴的な構成です。昭和30年代まで新屋うどんを作る製麺所でした。国登録有形文化財。新屋駅から徒歩約14分。

㉕ 昔の匂いがする町家

細長い通り土間や妻入り屋根など、秋田の典型的な町家形式を伝えています。昔は近所の子どもたちが、通り土間を運動場のようにして駆けぐっていました。

㉖ 仙葉善治商店（せんぞ）

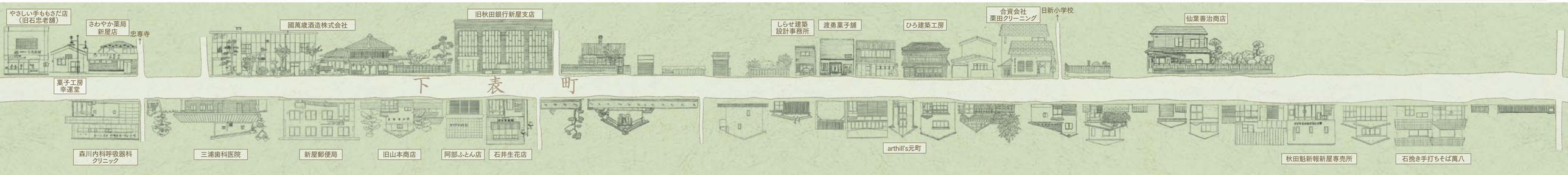
仙葉善治商店は、明治23年創業の味噌醤油醸造元。亀甲善（キッコーゼン）醤油を醸造し、販路を県外までのばして業績を拡大させました。昭和10年からしょっつるも製造・販売しています。

㉗ 栗田神社

栗田定之丞（1767～1827）を祀る神社。栗田定之丞は、18年間で300万本の松を海岸線に植えて、飛び砂から人々を救った植林家です。この植林に協力した2人が、天保3年（1832）、現在の割山町に栗田の遺愛碑と小祠を建てました。安政4年には、現在の雄物川放水路の真ん中に神社を建立しましたが、雄物川改修工事の関係で大正元年に現在地に遷座しました。市指定史跡。新屋駅から徒歩約24分。

㉘ 緑町・笹町の地蔵堂

【新屋のむかしばなし】
130年ほど前、塩売りの青年が地蔵尊の首を奪って雄物川に捨ててしまいました。しかし翌日地蔵堂に行ってみると、無いはずの首が元どおりになっていました。何度もそれを繰り返し、最後は縄でぴっしり石をつけて川の深いところに投げ入れ、それ以来地蔵尊は首無しとなってしまいました。しかし、ある日乗船客十数人で雄物川を渡って向こう岸に着き、船頭が人数を数えてみると、乗っていたはずの若い塩売りが見当たらず、方々探しましたが、ついにその男は行方不明となってしまいました。その後、首は信者達で修復されましたが、現在でも首と胴の石材は異なっています。

㉙ 分断された旧羽州浜街道

【雄物川改修工事とは】
雄物川下流域は川の蛇行が著しく、雨が多い時には氾濫を繰り返していたため、秋田市や周辺地域の人たちは長い間水害に悩まされてきました。明治19年、水害から地域を守る対策として、日本海に放流する2㎞の新しい水路を造ることにしました。改修工事は大正6年に着手し、22年の歳月をかけて、昭和13年に完成しました。新しい水路がつくられたことによって、当時の要路であった旧羽州浜街道が分断されました。